

## 嵯峨天皇行幸一千二百年

当宮の主祭神であられます、第五十二代嵯峨天皇さまが、弘仁十三年(八二二)に、当地に行幸になられて本年でちょうど一千二百年となります。

当宮ではこの慶節にあたり、御本社東門に令和の元号を揮毫された、茂住蒼邨先生の手跡による新社号碑の建立、玉垣の建立事業等奉祝事業を進め、一千二百年目に入る昨年には奉祝祭を斎行申し上げました。

当宮の伝承では、嵯峨天皇さまが行幸されたのは、前年に建立された太融寺に参詣の為であり、その後、神山の地(現在の御本社)に頓宮を構え一宿されたといわれております。しかし当時の国史である『日本後紀』には、この行幸についての記録は残念ながら残っておりません。(応仁の乱などで散逸した為か)です。弘仁十三年の「いつ」当地に行幸になられたのかは今も分かっておりません。

当宮も自然災害をはじめ、数々の災難に見舞われてきた事から、残念ながら史料の多くが失われており、今では確認する事も叶いませんが、近隣の太融寺に残る、建武元年(一三三四)の、足利尊氏の書状には、既に嵯峨天皇皇子である源融公の創建である事が書かれており、嵯峨天皇さまと当地の関わりが深かった事は間違いないものと見られていいます。

そうした中で一つ確実なのは、嵯峨天皇さまが崩御あそばされたのは、承和九年(八四二)七月十五日であり、この日は当宮の例祭日(神社で一番大切な神事の日)でもあります。普通天神さまを祀る神社ではご縁日の二十五日を例祭日に当てる事が多いのですが、当宮の例祭日が七月十五日である事は、江戸時代の天明年間の記録にもすっかり残っており、近世以前からの当宮と嵯峨天皇さまのゆかりを示す、大事な日である事を今に伝えていきます。

当宮は全国で唯一嵯峨天皇さまを主祭神に祀る神社であり、本年も嵯峨天皇さまと当地の御神縁を尊び、七月十五日の例祭を謹みてご斎行申し上げます。

## 七夕祭 中止について

前号でもご案内致しました通り、コロナ禍による感染防止対策の観点から、残念ながら、本年も茶屋町の御旅社七夕祭の短冊授与は中止とさせて頂く事となりました。

しかしながら、三年間も何も無いままでは余りにも寂しい事から、本年は鳥居と本殿前のみ笹飾りを致し、星合の夜を彩る予定です。何卒ご理解ご協力のほどお願い申し上げます。

## 御朱印 夏季休止期間

例年、六月十五日から、七月二十五日まで、当宮夏季繁忙期の為、茶屋町の御旅社での御朱印の受付は休止させて頂いておりますが、本年は七夕祭を中止致します為、休止期間を短縮し、七月十一日(月)から 七月二十五日(月)までの間を休止期間とさせて頂きます。

再開は七月二十六日以降の予定ですが、正式には当宮ツイッターでご案内させて頂きます。

## 御旅社 授与所 平日受付日

今月の茶屋町の御旅社の平日受付日は  
七月二十六日(火) 十三時～十七時の予定です

## 今月の暦

### 【祭礼】

七夕祭(六～七日)：御旅社 本年は神事のみ  
例祭(十五日)：御本社当宮で最も大切な祭神事のみ  
遣梅式(廿四日)：御旅社 神事のみ

### 【節気】

小暑(七日)：梅雨明け頃。セミが鳴き始める  
大暑(廿三日)：暑さ厳しき頃。暑中見舞いの時期  
半夏生(二日)：田植え納め。縁起の良い夕方を食す  
夏の土用(廿日～八月六日)：土掘りは縁起悪い時期  
土用の丑(廿三日)：滋養の為にウナギ等を食すと云う  
山開き(海開き(七月上旬)：安全を考慮しての時期

### 【大安】

七月四日、十日、十六日、廿二日、廿八日

### 【祝日】

海の日(十八日)

### 【朔望】

上弦(七日)、満月(十四日)、下弦(廿日)、朔月(廿九日)

### 【旬】

【野菜】 枝豆、インゲン豆、キュウリ、ピーマン、生姜  
【果物】 スイカ、バナナ、メロン、瓜  
【魚介類】 アナゴ、アユ、ウナギ(養殖)、ハモ、ウニ、タコ  
【その他】 七夕の素麺、白蒸しまつり飯、百合の花が見頃

## 網敷天神社 SNS、地図サイト

Twitter



Facebook



当宮地図  
Google MAP

